

平成18年度

大学入試結果

学校の個人情報について考える

学習指導部長 春田裕之



国公立大学			
	総 数	現 役	卒業生
東京大学	52	44	8
京都大学	5	2	3
一橋大学	15	10	5
東京工業大学	12	9	3
北海道大学	4 (1)	1	3 (1)
旭川医科大学	1 (1)		1 (1)
帯広畜産大学	1	1	
東北大学	8 (2)	7 (2)	1
筑波大学	5 (3)	3 (1)	2 (2)
群馬大学	2 (2)	2 (2)	
埼玉大学	1	1	
千葉大学	16 (7)	10 (5)	6 (2)
電気通信大学	3	1	2
東京医科歯科大学	2 (1)	1 (1)	1
東京外国語大学	1	1	
東京海洋大学	1		1
東京農工大学	6	3	3
横浜国立大学	3	3	
新潟大学	4 (4)	2 (2)	2 (2)
富山大学	2 (1)		2 (1)
金沢大学	4 (3)	3 (2)	1 (1)
山梨大学	3 (3)		3 (3)
信州大学	2 (1)		2 (1)
浜松医科大学	1 (1)	1 (1)	
名古屋市立大学	1		1
神戸大学	1 (1)		1 (1)
岡山大学	1 (1)		1 (1)
広島大学	2	1	1
高知大学	1 (1)		1 (1)
鹿児島大学	2	2	
首都大学東京	10	4	6
横浜国立大学	1		1
大阪市立大学	2 (2)		2 (2)
九州歯科大学	1		1
防衛医科大学	7 (7)	3 (3)	4 (4)
防衛大学	3	3	
国公立大学総計	186 (42)	118 (19)	68 (23)

私立大学			
早稲田大学	195	128	67
慶應義塾大学	150 (5)	111 (5)	39
青山学院大学	8	5	3
麻布大学	2		2
亜細亜大学	1		1
学習院大学	2	1	1
神奈川大学	2	1	1
北里大学	10	4	6
共立薬科大学	2	1	1
杏林大学	2 (2)	1 (1)	1 (1)
國學院大学	9	2	7
国際医療福祉大学	1		1
国際基督教大学	1		1
埼玉医科大学	1 (1)		1 (1)
産業医科大学	1 (1)		1 (1)
芝浦工業大学	11	2	9
順天堂大学	5 (5)	3 (3)	2 (2)
城西大学	1	1	
城西薬科大学	1	1	
上智大学	47	21	26
昭和大学	10 (5)	3 (1)	7 (4)
成蹊大学	3	1	2
成城大学	2		2

聖マリアンナ医科大学	1 (1)		1 (1)
専修大学	4		4
千葉工業大学	1		1
中央大学	62	29	33
帝京大学	4 (1)		4 (1)
東海大学	1		1
東京医科大学	2 (2)	1 (1)	1 (1)
東京工科大学	3		3
東京工芸大学	2	2	
東京慈恵会医科大学	5 (5)	2 (2)	3 (3)
東京電機大学	5	4	1
東京農業大学	10	4	6
東京薬科大学	10	5	5
東京理科大学	118	76	42
東邦大学	3 (1)		3 (1)
東洋大学	1		1
獨協大学	1		1
獨協医科大学	1 (1)		1 (1)
日本大学	31 (2)	3	28 (2)
日本医科大学	8 (8)	4 (4)	4 (4)
日本獣医生命科学大学	4		4
日本獣医畜産大学	3		3
藤田保健衛生大学	1 (1)		1 (1)
文教大学	1		1
法政大学	24	5	19
星薬科大学	5	2	3
武蔵大学	5	2	3
武蔵工業大学	3	1	2
武蔵野大学	1	1	
武蔵野美術大学	2	1	1
明治大学	59	20	39
明治学院大学	7	1	6
明治薬科大学	7	1	6
明星大学	1		1
立教大学	41	14	27
立命館大学	2		2
龍谷大学	2	2	
私立大学総計	905 (41)	466 (17)	439 (24)

海外の大学			
カリフォルニア州立大学フラトン校	1	1	

() は、医学部の合格者数

皆勤者数と東大現役合格者数の比較

年度	11	12	13	14	15	16	17
皆勤者数	61	72	49	47	35	48	72
東大現役合格者数	45	47	30	34	23	38	44

●「個人情報」の保護を巡る功罪
最近の「個人情報」に関する関心は、今までがあまりにルーズであっただけに、人権保護という観点からしてもよいことである。いや、よいことのはずである。しかし、「個人情報」という言葉だけが、暴走してしまい、知らず知らずのうちに人と人との関係に齟齬を生じ始めているような気がしてならない。

・学校、特に進学指導という立場では次のようなことが考えられる。
・在学中に塾・予備校に行っている生徒の状況がつかめない。
・校外模擬試験を受けた生徒のうしたことが、本人や家族による情報開示拒否によってどうにもならなくなってしまうのである。調査書という本来重みのあるはずのもの、事務的に発行するだけで、単なる紙切れのようない。
・卒業後何処の大学に行っているのか、あるいは浪人しているのかもつかめない。
・卒業生の生活や学習状況がつかめない。
・卒業生の学習や志望状況も分からないままに次年度受験のための調査書を発行することになる。

●卒業生への期待
4月の終わり頃に6年前の卒業生が進路相談室を訪ねてくれた。外務省に入省したSくんである。情報開示拒否によってどうにもならなくなってしまうのである。調査書という本来重みのあるはずのもの、事務的に発行するだけで、単なる紙切れのようない。
・卒業後何処の大学に行っているのか、あるいは浪人しているのかもつかめない。
・卒業生の生活や学習状況がつかめない。
・卒業生の学習や志望状況も分からないままに次年度受験のための調査書を発行することになる。

●教師の役割
ところで、行きすぎた人権意識を非難するだけではなく、我々がある。7月にフランスに留学するに当たり、諸々の手続きのため高校の卒業証明書が必要となり、海城に来たこのことであつた。卒業後も度々訪ねてくる。在学中の思い出や将来のことをいろいろと話してくれた。彼は順風満帆のコースを歩み始めたのかもしれない。しかし、人生の節目節目には必ず海城を思い出してくれるのではないかと、多くの卒業生にそんな気持ちになつて欲しいものだ。

●大学入試結果と皆勤との関係
さて、昨年、大学入試と皆勤の関係(皆勤者数と現役東大合格者数とは若干の相関関係が見受けられる)を本誌に書いた。それが偽りでなかったことを今年の大学入試結果と見比べて再認識して欲しいものである。

教師も反省しなければならぬ。多々あると思う。つまり、それだけ彼らに学校への帰属意識を作れなかったというのである。真に彼らの教師足り得たのかということである。



題字 河原孝好先生

発行
平成 18 年 7 月 19 日
第 26 号
海 城 学 園
海 原 会
〔海原会事務局〕
〒 169-0072
東京都新宿区大久保
3-6-1 海城学園
TEL 03-3209-5880
FAX 03-3209-6990
E-mail : unabara@kaijo.ed.jp
海原会 URL
http://www.unabarakai.jp/
海城学園 URL
http://www.kaijo.ed.jp/

今号の紙面	
平成 18 年度大学入試結果 / HP 告知	1
総会記事 / 海原会受賞者 / 会長挨拶	2
理事長挨拶 / 学校長挨拶 / 第 13 回吹奏楽団定期演奏会	3
同期会・クラス会等通信	4
計報 / 永年会費納入者 / 会費納入のお願い / 短信	5
先輩を訪ねて「小澤一彦さん」	6
那須高原海城特集 / 新 2 号館完成 / 編集後記	7

「海原会」ホームページ リニューアルオープン

「変わる、海城」とともにホームページも近日中に変わります。
ホームページを開設して1年経ちました。広報委員会では、会員の親睦交流を更に広げ、情報の発信基地として努力していきたいと考えています。
主な課題としては、◎プロローグ写真の差し替え、◎HPのアイコンの整理統合、◎海原会だよりの新設など、コミュニケーションの場を提供したいと考えています。
また、会員の皆様にはHPを通して気軽にクリックして活用してください。

広報委員会

<http://www.unabarakai.jp/>

キーワード
海原会から
も検索 OK

会費納入は済みましたか？ 会費未納の方は同封の振込用紙をご利用になり、早めに納入してください。年会費 3000 円／永年会費 30000 円以上です

理事長挨拶

学校法人海城学園理事長 古賀喜博



流が実現するの期待されるところです。

当日、短い挨拶の中では、せぬ事が多々ありましたので、会報の場をお借りし、若干母校のご報告と、将来への展望をお届けしたいと思ひます。

今年度の海原会総会には、例年どおり沢山の会員にご出席いただきました。

卒業生の一員として誇りに思ひ、また学園をお預かりしている者の一人として非常に心強く感じました。これも会長を初め会員の皆様方のご協力の賜と心より御礼申し上げます。

そして、昨年に引き続き、兄弟校であります那須高原海城校の卒業生の参加もあり、将来両校の同窓会がどのような形で交

学校長挨拶

海城中学・高等学校校長 和田征士



4階以下では授業を通常通り行いながら工事が進みまして、現在の建設工事の進展が読みとれました。この4月からは、使用できるようにになりました。

姉歯事件以後、建物の耐震強度が注目されていますので、学校では、改めて、耐震診断を全建物につきまして実施しました。5・4・1号館では、将来にわたって、生徒の安全を最優先させる考え方を採り、耐震補強工事を夏休みに実施するべく計画を進めています。

さて、経済界では、イノベーションが合言葉のようになっていますが、本校も、改革を進めています。この春実施しました入学試験から、中学校の募集数を1クラス分増やし、高等学校の募集数をその分減らす措置を取りました。結果は、上首尾でこの移行ができたと考えています。多く合格させれば、

的には、最近の青少年の一部に人間関係を良好に構築することに不得手な面が見られ、これを補う意味もありますが、それより海城全体で取り組んでいる教育目標である「新しい紳士」の必須の素養を身につけるのには、非必要な教育であります。IQ（知能指数）だけでなくEQ（こころの知能指数）の充実が期待されます。中学を中心に実施され、将来大きな力を発揮するものと期待されます。

海城では、早くから取り組み、もうすっかり定着した社会科の総合的学習、ネイティブ教師による英語教育、海外への研修、生徒の精神面のケアのためのスクールカウンセラーの導入等々、他より一歩早い取り組みを常に心がけてきました。新しい挑戦には大きなエネルギーが必要ですが、優秀な教師陣の存在と、指導に十分対応して成長を続ける生徒が存在することが出来ると思ひます。

学力の面でどうなるかの心配がありました。が、応募数が前年より増加し、広報委員会の努力が報われた形になりました。

中・高の受験界の動向を見ますと、もう一段の手直しが必要と受け止めています。

また、生徒満足度調査から、検討を加えた結果、PA（プロジェクタードベンチャー）という手法を採用し、低学年から順次実施し始めました。人間関係の作り方や、協力・協働・信頼関係の大事さを、実際の行動訓練の中から体得して貰うことを目指した内容になっています。

具体的には本校ホームページをご覧下さい。何よりも重要なことは、この導入に当たって、先生方が合宿まで行って、指導法を身に付け、指導に当たってのことです。その積極性が、PA指導内容の充実止まらず、教育活動全般が活気づく好影響があります。「読売ウィークリー」では、既に取り上げ、TV局からの取材の申し込みが来ている。学力の充実と共に、

公立学校の復活が話題となり、少子化の波で大学全入時代の到来が言われておりますが、このような時代こそ漸く本当の実力が問われる時が来た、つまり母校の力を発揮すべき絶好のチャンスがやって来たと、捉えたいと思ひます。

本当の意味での中等教育を実施し、価値ある人材を育成することが真の成功につながると思ひます。母校の更なる発展のために、海原会の皆様方の強い応援と、ご理解協力をお願い致します。

海城吹奏楽団

●13回目の定期演奏会開催



13回目の定期演奏会の演奏風景（上）と定期演奏会に演奏者・裏方等として参加している、OBの面々（右）



となっていくことを考える時期でもある。

高校生28名、中学生15名合計43名の団員と教員・OB等を加えた演奏者、舞台の裏方であるスティージマネージャーを務めるOB、創団以来の指揮者兼トレンナーである佐藤靖久先生の指揮、そして吹奏楽顧問である福島羊一先生の司会。そして、学園の支援と海原会による後援。いつもながらの構成で行われる演奏会は、吹奏楽団の演奏の形が落ちていたことこの証であるかとも思われる。

本年は、昨年（3部構成）とは形式を改めて2部構成の演奏会であった。

第一部は、吹奏楽のオリジナル曲の間に、海城学園の歴史が海軍予備学校として始まったことに因んで「海」に関係のある行進曲を2曲（「海兵隊」と「錨を上げて」）演奏。そして大手映画会社である20世紀FOXで使われている「20世紀FOXファンファーレ」により、今年の演奏会のテーマである「映画音楽」の演奏を1曲行う。ここで第一部は終了、休憩となる。

第二部は映画音楽づくし、司会進行もこの演奏会を以て引退となる高校3年生が行った。第二部で演奏された曲が使われている映画を演奏された順序であげると次の通りである。

バットマン (1989年)
JFK (1991年)
ターミネーター2 (1991年)

遙かなる大地へ (1992年)
ティファニーで朝食を (1996年)
ゴッドファーザーパートII (1974年)

リトル・マーメイド (1988年)
カサブランカ (1941年)
ハウルの動く城 (2004年)

第二部では高校生たちによるソロ演奏や、顧問である斎藤猛美先生率いるリコーダー隊が演奏をより味わい深いものにした。曲目も様々な年代の映画を取り上げており、そしてそれ

らも約650名もの方々にご来場いただいた。これだけ多くの方々が、連休の最後となるイベントとして海城吹奏楽団の演奏会を選んでいただけたということには大変うれしいことであり、ここに感謝の意をあらわしたい。

◆海城吹奏楽団OB会の発足について

第13回演奏会終了後、顧問の先生方と共に、「OB会（打ち上げともいう）」を行い、ここ数年の演奏会で検討されていた海城吹奏楽団OB会を組織として発足させることになりました。

染矢祐一郎氏（創団時の団長・昭和63年卒）を暫定会長、当面の事務局として、僭越ながら、私、小川勝（平5年卒）が務めさせて頂き、福島羊一先生が担当顧問という体制で今後の準備を行っていきます。

まずは、定期的に集まれる範囲で合奏や懇親会等を行い、また今後の演奏会に対して、各行える範囲での支援をと考えています。

発足準備に当たったすべての連絡体制を整えていきたく、現在この記事をお読みの吹奏楽団OB各位は後述するメールアドレス宛に、氏名・担当楽器・卒業年次・住所・電話番号・E-mail（携帯電話のものは極力避けて頂きたい）をお送り下さい。

なお、お送り頂いた情報はOB会に関する連絡のみに利用されるものであり、それ以外の用途に使用されるものではありません。

送付先アドレス
kwe_umabara@yahoo.co.jp

通信

同期会・クラス会等

◆幹事のみならずへ
同期会・クラス会を開かれた時は
海原会事務局まで、写真・原稿を
お寄せください。

湘南海原会

❖思い出話を中心に

◎平成17年11月26日(土)
◎於・茅ヶ崎駅前
「相撲茶屋 中味川」

◎出席者・13名
中村久憲先生のご出席をいた
だき、河合卓爾会長(昭18年卒)

以下12名の会員が参集しまし
た。中村先生より学園の近況を
話していただき、会員相互の近
況等を発表し合い、盛会のうち
に約2時間の宴会を終了しまし



昭和52年卒 クラス会

❖「黒木先生を囲む会」を開催

◎平成18年5月13日(土)

◎於・銀座「Jinrai」

◎出席者・19名

昭和52年卒6年10組「黒木先
生を囲む会」を開催しました。
先生ご夫妻ご臨席の会は、こ
こ5年間で3回目、3年ぶり。
黒木利雄先生ご夫妻を17名の教
え子が囲みました。卒業以来29
年ぶり初参加の人も加わり、ク
ラス会の輪は拡大中。これも偏
に幹事の森さん、石原さんのご
尽力の賜物です。

た。中村先生より平塚市内在住
の小澤一彦様のご紹介をいただ
きました。次回の湘南海原会(平
成18年5月27日)に参加してい
ただこうと考えています。
(佐藤都志雄 記)

◎平成18年5月27日(土)

◎於・茅ヶ崎駅前「庄や」

◎出席者・9名

恒例の湘南海原会(会長河合
卓爾)は昭和18年から昭和29年
の卒業の9名で行われた。毎年
2回開催されているが出席者は
高齢者が多く戦争体験、海城時
代の旧友の話が中心であった。
昭和30年前後の学園機関雑誌
「海原」が会員から持ち込まれ皆
で回覧し思い出話が盛り上った。
「海原」には当時の運動場の拡
張の苦労話や、野球部の活躍な
ど、今からみると大変貴重な歴
史が掲載されていた。今日の学
園発展を思うと感慨ひとしおで
あった。次回11月の再会を誓っ
て解散した。
(幹事 山口昌男 佐藤都志雄)



近況報告では、各々の仕事
や家庭、社会、学問との格闘ぶ
りが語られ、なかには家業の跡
取りに婿が欲しいといった冗談
とも本気ともつかない発言も飛
び出しました。今となれば懐か
しい当時の話に興じれば、2時
間余りは瞬く間。元クラス委員
佐々木さんの音頭で、先生ご夫

昭和27年卒 銀座海原会

❖話題の尽きない「万年青年 グループ」

◎平成18年3月20日(月)

銀座や日本橋界隈に勤めてい
た仲間が中心になって産声をあ
げたのが「銀座海原会」。かれ
これ40年ぐらいい前のこと。
残念なことには、一人は既に
鬼籍に入り現在のメンバーは8
人。証券マン、銀行マン、国家
公務員、ジャーナリスト、メー
カーや百貨店幹部など現役時代
は、いずれ劣らぬ企業戦士の
面々。

みんな元気なころは、夫婦
揃って海外旅行、国内旅行を楽
しんだ。海外旅行では、このメ
ンバーのついで、イタリアの
「ベック」など本場の高級料理
を味わったり、海外勤務の経験
のある仲間が、通訳や案内役を
したり……。エピソードに事欠
かない愉快な経験をした。
いまは、夫人同伴の新年会と
亭主だけの月一回の昼食会が談
笑の場。校友会や「海原」の編



妻と出席者全員の益々の健勝を
祈念して3本で中締めとなりま
した。来年は卒業30年、再会を
期しつつ2次会会場へ向かった
のでした。
(鈴木義隆 記)

昭和34年卒 海原三四会 さいたまグループ

❖さいたまグループ発足

◎平成18年5月13日(土)

◎於・浦和ワシントンホテル

「日本海庄や」

◎出席者・9名
昨春秋に開催された「海原会
三四会」の席上で、浦和・大宮・
与野の3市に加え岩槻市が合併
し「さいたま市」が完成した事
を契機に市内に居住する同期生
で集まろうとの話が持ち上がった。
具体化に際して、海城在学
時代に「さいたま市域」に居住
していた者と現在住んでいる者
12名をメンバーにすることを決
め、開催を実現させることにし
た。今回は、外国に駐在する者
少々遠隔地に居住している者
仕事中の者の3名が欠席し、9
名が集まった。

当日は、再会を記念した乾
杯で開宴。母校校舎の変容ぶり
の紹介、海原三四会の活動報告
を行った後、出席者全員が母校
卒業後の状況を報告したり、現
在の生活について語り合い、思
い出話に時が流れた。なかには

平成14年卒 学年同窓会

❖約70名の同窓生集まる

◎平成18年1月14日(土)

◎於・母校カフェテリア

◎出席者・約70名

卒業4年目を迎え、初めて
学年同窓会を開催しました。ク
ラスを越えた友達がいる人も多
く、また就職を間近に控えた人
もおり今後なかなか会えなく
なってしまうかもしれないと思
い、企画しました。
当日は7名の先生方と、約70
名の同窓生が集まりました。こ
こまで大勢が集まるのは卒業式
以来だったの
で、皆、久々の
再会を楽しんで
いました。担任
以外の先生方と
お会いできた
のも、とてもよ
かったです。
そしてなん
と、この日は学
年主任の茂木先
生の××歳の誕
生日。電気を全
て消して、同窓
生の「ハッピー
バースデー」の音
楽にあわせて、
ローソクを灯し
たケーキをプレ
ゼント。卒業生
からのサプライ
ズ、先生にもさ
ぞかし喜んで頂
けた事でしょう
(P)。



今後、毎年1回、同じ時
期に開催する予定です。同窓生
のメーリングリストを作ったの
で、まだ入っていない人は、左
記までご連絡をお願いします。
kaijo2002-owner@yahoo.co.jp
(黒岩直輝 記)



47年ぶりに顔を合わせる旧友も
あったが、互いに語り合う内に
昔が思い起こされて、当時の部

活動・授業の想い出話・恩師の
話などに花が咲いた。そのうち
に、やはりサッカーの街「さい
たま」らしくJリーグ・浦和レッ
ズに話題が移っていった。
これを機会に互いの連携を深
め、時に応じて集まることを約
束して散会した。こぢんまりし
た宴だったが、実り多き時間を
共有することが出来た。
(市川武昭 記)

昭和52年中学入学
同期会

▼卒業以来30年振りの再会

◎平成18年2月25日(土)

◎於・新大久保

◎出席者・19名

小垣貞夫先生をお招きし、クラスの半数近くの19人が元気な顔を見せた。

「小垣組」の同期会はこれまで2回? 開かれたが、今回は卒業以来約30年振りの再会となった同期も多く、一味違ったクラス会となった。

小垣先生はお元気で、奥様と温泉旅行を楽しみながらマイペースの日々を過ごされているとのこと。出席者はそれぞれ「近況報告」を行ったが、ルックスが大変貌を遂げ、顔と名前がなかなか一致しない同期もいて、時の流れを改めて感じさせた。また、当時ワルと見られていた生徒が女子高の先生へと見事な変身を果たしたケースや、離婚4回という超絶級の猛者もいて、大いに盛り上がった。

最後に、小垣先生に心ばかりの記念品を贈り、次回の幹事を決めて、4時間近くに及んだクラス会はお開きとなった。なお、次回幹事は小川公義君で、連絡先は0471-67-8948。

(宮尾篤 記)



昭和26年卒
海原二六会

▼中学卒業写真に感激

◎平成18年2月26日(木)

◎於・高円寺「アルシェ」

◎出席者・12名

開催場所の「アルシェ」は、太田 稔君の店で、夜は洒落たスナックとして、高円寺では名の通った店となっている。さて、当日は強風を伴う豪雨で、参加者が少ないのではないかと心配したが、それでも12名が集まった。年6回、偶数月の開催は、毎回顔ぶれ的にそう変わることも無いが、それでも久しぶりに顔を出す者もいて、それなりに新鮮味のある会合となっている。メンバーはカッコ内のおりだが(市川孝、太田、小川、加々美、小竹、小館、立石、藤田、星川、水尾、山口、山本)、今回は実に懐かしい写真が披露されて、写っている人物名を当て



ることに夢中になった。われわれは、昭和20年に中学に入學し、昭和30年に高校を卒業したもののだが、その間、中学3年時に学制改革があり、そのあおりで中学4年進學時に高校1年に入學という事になった。したがって、中学3年終了時に他の高校に進學した者が何人かいたのである。先の写真は、事実上中学3年C組の卒業写真となったものであるが、50名近くの集合写真は比較的鮮明で、顔の識別は容易であったが、名前の出てこない者が結構多くいた。私小川

昭和47年中学入学
同期会

▼関先生を囲んで

◎平成17年11月19日(土)

◎於・池袋東口バルコ8階

◎出席者・9名

尾木先生のご活躍については新聞やテレビ、沢山のご著書を通して遥かに仰ぎ見ておりました。が、数年前から下條君と一緒に年に一度お会いする機会をつくっていただいております。お会いすると、懐かしさとともに不思議な気持ちになります。高校時代と変わらぬ温厚で気さくな若々しい先生は、マスクミで大活躍の有名人名でもあるという事実。教育評論家として、様々な新しい重要なご提言をなされておられます。

林先生・尾木先生
を囲んで

▼生涯の師・生涯の友

◎平成17年9月6日(火)

◎於・六本木

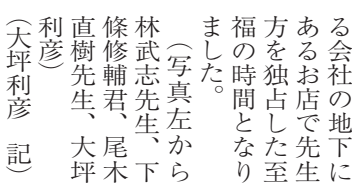
◎出席者・4名

恩師お二人をお迎えしてのこの寛いだ雰囲気は、高校卒業から30年後の昨年夏のひとときです。

林先生と尾木先生は私たちの国語の先生で、当時は20代の青年教師でいらつしやいました。少年の興味を惹きつけてやまない両先生の授業を毎回待ち遠しく感じたものです。下條君と私は高校1年のクラスメートとして出会い、それ以来変わらぬ無二の親友です。「兄貴」的存在であった福島羊一先生のキャラクターが作られたように記憶しております。



何故なら、そのクラスからバドミントン同好会が誕生し、現在の部へとゆるやかに継続しているからです。その顧問としてお願いしたのが尾木先生で、昭和50年の卒業アルバムに記念写真が収められています。卒業後、



(大坪利彦 記)

この会は、平成13年9月に小室寿典君の13回忌に墓参したのを機に発足し、今回で5回目の開催へとつながった。小室君の命日が10月9日ということ、それを偲び同時期に開催している。

今回は同期生だけでなく、担任であり6年間数学を教えていただいた関尚明先生を囲んでの酒の酌み交わしとなったので、例年以上の盛り上がりとなった。

やはり当時の先生方の近況や今の海城の様子がよく分かった。熱心に聞き入る場面が多かった。そろそろ自分達の子供の進路とダブル場面が出てくるのではなさらずであった。また当時の話は幾度聞いても毎年新鮮に聞こえてくるのがうれしくて懐かしい。

お決まりの海原への投稿用の

平成3年中学入学
イチヨン会

▼「イチヨン会」結成!

◎平成18年1月28日(土)

◎於・新宿「八吉」

◎出席者・20名

卒業した時のクラス会はあるても、入学した時のクラス会ってないよね…。そんな話から、中学1年の時の初々しい気持ちの思い出すべく(っ)、中学1年の時のクラス会を開催しました。平成3年度(1991年度)中学1年4組OB会として「イチヨン会」。第1回となる今回は、担任だった八塚先生をはじめ、在阪組を含め20人の懐かしい顔が集まりました。

卒業から9年、入学からは15年が経過しており、それぞれの進路もまさに様々。弁護士、医者、歯医者、エンジニア、金融マン、商社マン、鉄道マン、公務員そしてラスベガス仕込みの「奇術師」…。文系・理系のコース分け前のクラス会ということ、様々な職種・仕事の話が出て盛り上がり、「お前がそんなことしてんの!」となる一幕も。

昭和23・24年卒
海原二三四会

▼戦後60年を思い出そう

◎平成18年5月20日(土)

◎於・外国特派員協会

◎出席者・24名

海原二三四会は昭和23年旧制中学最後の卒業生と翌24年新制高校最初の卒業生の集まりで、毎年5月同期会を開いております。今年も5月20日に外国特派員協会で24名の仲間が集い、旧交を温めました。参加者が徐々に減っていくのは、自然の摂理かなと感じました。大方の者は現役を退いていますが、昨年紹介した通り、いま尚、第一線で活躍している人も多数います。

参加者全員にマイクを握って貰って近況等を話して貰い、お互いの健康と次回の再会を願いながら散会しました。

(大貫金吾 記)



全員が自分の道を一步一步あゆんでいることを実感し、懐かしい仲間から、新たな刺激を受ける会となりました。

この「イチヨン会」、来年度以降も名前に因んで毎年1(イチ)月の第4(ヨン)土曜日に開催いたします。「毎年、それぞれの現場の風を持ち込み、お互いに自分の今と原点を確認しあえる



ような場に」(八塚先生談)できていることを実感し、懐かしい仲間から、新たな刺激を受ける会となりました。

(久保田祥一 記)

昭和62年卒
有志同期会

▼目指すは、来年の「卒業20周年記念会」

◎平成18年6月3日(土)
◎於・日本橋「番屋」

◎出席者・17名
初代小林組のクラス会で発案された、昭和62年卒の有志同期会。連携プレイもバッチリで17名の参加者(二次会からの参加者も含めるとさらに増える)で盛会となった。

先日会った顔、19年ぶりの再会と様々。「大きくなったねえ、君はもつと背が低かったのではなか？」同級生に対して親戚の子どもに語るようなセリフを吐く者もあり。一方、「俺の国井はもつと痩せていた」と、言われたこつちが困るようなことを言う者もいて、年月は色々な化学変化をもたらした実に面白い。

会の中心はもちろん小林先生である。話の輪に入りながらも、同期生の住所録整備のため聞き取りをして下さる。鬼刑事の尋問にも見えなくもないその光景！その住所録で我々が目指すのは、来年の「卒業20周年記念会」。その会での再会を誓ってお開きとなった。



鉄道研究会OB会

▼鉄研OB会の方は「連絡を

◎平成18年1月15日(木)

◎於・「梁の家」
◎出席者・9名

毎年一度に開催してきました中学高校鉄道研究会のOB会、今年は新年会を兼ねて去る1月5日(木)に敢行されました。卒業と同時に鉄道趣味から足を洗ってしまう方も多く、なかなか人数が集まらないというのが悩みの種なのですが、長谷川先輩のご尽力により多数の参加者を集めることができました。

新大久保駅近くの韓国料理屋の個室を貸し切ったので、メンツは院生から学部生まで様々、専門も金融から橋梁土木、交通経済まで何でもあります。が、各々自分の人生をエンジョイしているようです。それでもやはり鉄道の話題になるとみな

く語り出すところは変わりますが、小林先生のお話も示唆に富み、あと数年で社会人になる我々一同も自覚を新たなものとなりました。

余談ですが、未だに現役の鉄である方が多く、就職希望先が鉄道関係各社というのもご愛嬌ですね。将来ここから日本の鉄道業界を背負って立つような人材が現れることを願っています。

さて、ここ数年、鉄研OBの若い世代が定期的に顔を合わせる機会が増えており、ヨコだけでなくタテのつながりを持ちたいという話が盛り上がりつつあります。そこで、前々から話だ

◎参加者 1組↓上村昌弘・多田健一・多田保。3組↓庵一郎・伊藤和寛・小野大樹・景山昇一・国井信男・鈴木博久・森重喜。8組↓久武真二。9組↓大図泰宏。10組↓川久保博文・遠山景基・菱岡裕一・山田修・山本雄三。(国井信男 記)

小林組
クラス会
だより

■平成5年卒 新年会

◎平成18年1月14日(土)
◎出席者・12名

新年早々にクラス会を実施。今回は特別ゲストとして、学年主任だった数学の木村先生と、既に退職された美術の草野先生



けはあったもののなかなか実行に移せないでいた正式なOB会を本格的に立ち上げようということになり、世代を超え、いまだ仲間と集まることを目的とした「海城中学・高等学校鉄道研究会OB会(仮称)」を設立する運びとなりました。

主な活動として、毎年1月に新年会を兼ねた総会を予定しています。来年以降、より幅広い年代の方々に参加して頂ければと考えておりますので会の趣旨にご賛同いただける鉄研OBの方は tekken@kaijodai.jp までご連絡頂ければ幸いです。

末筆ながら、これからの鉄道研究会の益々の発展を祈りまして筆を置かせて頂きます。
(出席者「順不同」 小林好昌先生、石岡真男、中村雄一郎、長谷川伸幸、平塚崇、程山啓司、小笠原渉、間多洋彰、渡辺俊) (間多洋彰 記)

をお招きしました。一時期少なくなっていた参加者も昨年・今年と増えて来ましたが、30代に入りかなりの級友が家庭を持つようになりましたが、今後も末永い付き合いを続けていきたいものです。
(幹事・下河原優二)

■昭和62年卒 新年会

◎平成18年1月22日(日)
◎出席者・7名

恒例の新年会を兼ねたクラス会も、参加者はお馴染みのメンバーになりつつある。ところで、来年は海城を卒業して20年目！出来ればこの節目の年にクラスの枠を超えて「昭和62年卒同期会」を行おうという話になった。とりあえず、近々有志で同期会をする予定である(別掲載記事参照)。是非、来年集まりましょう。

(幹事・国井信男)

■平成8年卒 クラス会

◎平成18年2月4日(土)
◎出席者・7名

今年、卒業して10年目の区切りの年であるが、皆、仕事で忙しい世代なのかこのところ参加者は少ないのが、少々残念である。結婚して落ち着くものも、少しずつ出てきたが、今後はクラスの枠を超えて、同じ平成8年卒の集まりを開こうという話になった。
(幹事・関口朋宏)

■平成13年卒 クラス会

◎平成18年2月11日(土)
◎出席者・13名

卒業して5年が経つが、我がクラスは卒業時に浪人が7割近くおり、かつ理系ゆえに大学院にいくものが多いのは当然として、学部の方にも愛着があるのか、同学年に2回3回と在籍するものもいて、まだ、多くの組員が学生である。それでも数名は社会人になっているが、そのうち2名が教員である。小林組の卒業生で教員になったのは初めてかもしれないこと。当日はリクルーストの者も若干いて、いよいよ皆就職モー

ドになりそうである。
(幹事・奥沢怜央)

■平成16年卒 クラス会

◎平成18年3月21日(火)
◎出席者・20名

卒業して早2年。去る3月21日、新大久保「さくら水産」にて平成16年卒小林組クラス会が行われました。年に一回のこの会を楽しみにしている者も多く、始まる前から大きく賑わい、公然とお酒が飲める年になったので大いに盛り上がりました。
(幹事・浜田憲一郎)

昭和28年卒
海原二八会

◎平成18年6月3日(土)
◎於・歌舞伎町「車屋」
◎出席者・44名

靖国通りを都電がゴトゴト走っていた頃の歌舞伎町について記した本を読んだ記憶がある。

早稲田の学生が、新宿駅からサッカーボールを転がして、今のコマ劇場のあたりが低地であることを証明したとか、西武新宿駅前に森英恵の洋裁店があったなど。その中でわれわれの仲間小松良司君のあだ名「たろちゃん・たろ八」の由来が、彼の父上「太呂八」にあったことを知った。歌舞伎町は私に、学校では教えられない秘密を知らせ、大人の世界への饒を手向けてくれた街である。
(さとう かんしょう 記)



訃報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

昭58	昭52	昭44	昭43	昭42	昭41	昭41	昭41	昭39	昭36	昭36	昭36	昭35	昭35	昭34	昭32	昭30	昭29	昭28	昭24	昭22	昭22	昭20	昭20	昭20	昭20	昭19	昭19	昭18	昭18	昭17	昭16	昭16	昭16	昭15	昭15	昭13	昭11	昭9	昭8	昭8	昭8	昭8	昭4	昭3	昭3	昭2	昭2	
堀江	中町	加藤	館	岸	真壁	柴田	篠原	佐藤	久松	大西	岩淵	山口	谷口	大類	定村	阿部	竹村	堀	谷	遠山	清水	小島	清野	古口	倉林	内田	澤登	栗岡	平林	花咲	柳瀬	野村	清水	熊本	根本	稲崎	星崎	尾崎	西山	吉見	山下	牧野	飯高	井原	増田	塚崎	竹田	青木
祐司	充宏	修孝	伸一	幸夫	保	誠一郎	榮治	啓二	進	和夫	敏夫	鉄夫	晃男	征一	勝昌	雍昭	浩司	宏	隆孝	孝	孝	謙二	和正	昭	雅明	輝雄	正夫	利男	英一	俊彦	正夫	中庸	功一	貞亨	裕三	柳造	温	喜八郎	義勝	尚	正安	栄一	正毅	貞藏	茂男			
17	18	17	17	18	18	17	18	17	17	17	15	17	17	17	17	17	17	18	18	18	17	18	18	18	18	18	16	17	17	17	18	17	16	17	18	17	17	18	17	18	18	18	9	18	17			
7	6	7	7	3	3	3	2	12	11	11	12	7	12	1	2	1	3	4	2	4	1	1	1	1	10	9	12	6	2	9	6	5	1	4	8	3	2	9	5	1	5	1	5	11				
4	11	14		30	16		2	26								31	16	15	13	7	8	23	4	25	2	10	21	6	17	10			22	20	18	21	28	10	11	4	20	15	24					

短 信

グライフックデザイナーの青葉益輝さん(昭33年卒)が、芸術文化部門で紫綬褒章を受賞しました。

会費納入はお済みですか？

海原会の運営はすべてみなさんからの会費収入によってまかなわれています。そのためにも会費未納(永年会員を除く)の方は、ぜひ同封振込用紙により納入して下さるようお願いいたします。

年会費(毎年払込む) 3,000円
永年会費 30,000円以上

永年会費納入者(敬称略)

永年会費を納入されている方(封筒の宛名の下に「永」と表示されている)にも、封入作業の都合で、会費の振込用紙が同封されていますが、悪しからずご了承ください。

平18	平17	平17	平17	平17	平17	平17	平17	平17	平17	平17	平17	平17	平17	平17	平17	平16	平16	平16	平16	平12	平11	平7	平4	平3	平1	昭54	昭53	昭52	昭50	昭45	昭43	昭41	昭40	昭34	昭14	昭3万	昭18万	平8万	平3万	昭5万	昭32万	昭10万
射場	室橋	宮澤	三良	比谷	白谷	辰巳	武部	竹部	高松	鈴木	鈴木	佐伯	熊谷	大谷	綾木	雨宮	山本	杉本	安場	近野	柴野	河崎	賀崎	尾身	仁村	中村	興村	飯塚	仲村	金子	白川	梶川	石田	市川	市川	昭3万	昭18万	平8万	平3万	昭5万	昭32万	昭10万
章弘	弘輝	和哲	智翔	徒貴	徒夢	溪徹	達明	健輔	健朗	雄弘	一也	浩博	浩史	淳哉	淳輔	詠司	幸次	隆俊	茂樹	徳生	元孝	隆晶	啓太	弘隆	由隆	正隆	武隆	達次	秀明	覚	進											

先輩を訪ねて

日本戦没学生記念会
(わだつみ会) 常任理事

小澤一彦

(おざわかずひこ) さん
〈昭和 15 年卒〉

「戦争体験者は 80 歳を越えている。皆さん驚くべく記憶鮮明なのは体験がそれほど過酷だったと言うことだろう。どれも悲痛な迫真に満ちていた。(中略) 良かった」これは昨年小澤さんがテレビ出演の模様を新聞のコラムに書かれた一節である。今改めて強く感じた。そしてこの紙面では、浅学ながらも消化しきれない。戦争体験を聞いて、その想いを掲載させていただく。

(取材 山本満男 記・取材協力 石原長夫)



◆「葉隠」の精神

昭和 18 年、ちょうど 20 歳になった小澤さんは早大を繰り上げ卒業した。大隈講堂に垂れ幕が下がった。「いざ征け! いまこそ学徒の奮起すべきときだ!」それは学徒出陣の 2 ヶ月前であつた。

あつた。

この年、学生が戦場に狩り出され、学徒出陣壮行会が東条英機首相のもとで開かれた。

前年、ミッドウェー海戦で 4 空母を失い、18 年にアッツ島玉砕。

軍国青年の小澤さんは難関を突破して、海軍予備学生として館山海軍砲術学校に入る。その時の心境を聞いた。

「死ぬのはなんとも思っていないよ。ただ、かっこよく死にたかった」すかさず「そう! そう! 葉隠だね。『武士道とは死ぬこととみつけたり』だよ」(笑)

◆消耗品と戦艦「大和」

翌年、海軍少尉に任官。即日応召。現役に編入。その時のことを小澤さんは、

「私達の任地は太平洋の島々だが、少数の私達だけ最前線のアンダマン島に送られるのだが、えっ? アンダマンなんてどこに? 知らなかったねえ」(笑)

「ところが帽振れで送ってくれた後発組、しかも内地に近い任地の沖縄、硫黄島、サイパン、グアムなどの同期が戦死しているのは皮肉だよ」

しかし、自分はこの戦場に送られるのだろうかと思うとき心の動揺は隠せなかっただろう。手記の中で回想する。

私たち下級指揮官は、いわゆる消耗品であつた。それは『考える消耗品』でもあつた。だからいやおうなく死と対決させられた多くの学徒兵たちは悩み、そして苦しみ、諦めきつて『国のため、国民のため』と理屈をつけて、わが身に言い聞かせていた。

学徒出陣・敗戦・生きる

数少ない最後の生き証人

日本は敗戦の道をひたすら突き進んでいった。日本は燃料において致命的な欠陥を持っていた。すでに艦船は石炭で動かず、石油で動くようになっていた。日本は石油が殆ど産出できず、圧倒的に輸入に頼っていた。真実、石油獲得のための戦争でもあつた。

19 年 6 月、前線指揮官に必要な知識を短期間で叩き込まれた小澤さんは、戦艦「大和」に乗艦した。他二十数隻を従えて燃料補給の途に着く。新任少尉にとつてまたとない得がたい実習の航海だった。7 月サイパン玉砕。

◆ともかく運が良かった

戦艦「大和」と別れを告げ、別便でアンダマンに赴任した。9 ヵ月後、「大和」は待ち伏せされて、2740 人を乗せて沈んだ。

就任後、輸送船は次々に沈められ、この時、食料、医療品などは途絶えた。そして、戦死者の多くは餓死、マラリアなどの病気で次々に倒れたことに驚いた。

こんな話をした。 「着任早々、対潜哨戒艇の艇長としてシンガポールへ新造船 2 隻の回航指揮官を命ぜられたんだ。ところが、その留守の間私の哨戒艇の艇長を同期の森栄一が任ぜられたんだ。彼は何回かの航海後、英国の攻撃機に襲われ海没した。運命だね。私自身、新造船回航中にペナンで英国爆撃機の至近弾で、海峡を泳いで助かったのも運だな」

その後 2 度のマラリアに罹り生死をさまつた。小澤さんの「運が良かった」をしばしば聞いた。



「わだつみのこえ」像 本郷新記念 札幌彫刻美術館 (掲載写真) 本郷 新が戦没学生のためにどのような想いで制作したか。日本平和文化賞受賞作品。詳しくはネットで「ようこそさっぽろ」で紹介している。

この時分、海軍中尉に昇進。「……またマラリアに罹って陸上勤務になったため、戦犯事件に関わらなかつたので、助かったこともあつた。同期の慶大出身と法大出身の中尉が英国法廷で絞首刑になって……」

「運が良かった」は小澤さんのすべてを語りつくしている。終戦、否、「敗戦」になった。「私達は英軍の捕虜になった。武装解除。翌年、米軍上陸用舟艇にて復員した。東京は焦土化して四谷の家は焼失していた。再び思い出して「軍人は死んでいい。だが命令された学徒と内地で戦災を受けた国民は戻らない」と言った。

◆懐かしい海城の風景

小澤さんは昭和 10 年(1935)海城中学(5 年制)に入学した。世界史は大きく動いていた。

陸軍に比べ海軍は技術的、合理的、そして躰などが秀れている。海城を語る限り、英国型海軍教育の良さが浮び、先生の事、友人の事、1 年生から柔道・剣道の事、歩兵銃を持たせられた軍事教練の事、配属将校の事、食事マナーの事。

ふと思ひ出して、 「多分、校庭に桜があつたはずだ。桜が散つてね、古武士的気持ちになって身震いしたよ。桜はいさぎよさの象徴。靖国神社に一杯咲いている。『靖国で会おうぜ』なんて、桜こそ、いい迷惑だね」(笑)

更に卒業アルバムを広げて見ると、各先生のあだ名が書いて

あつた。

「海城」がいっぱい詰っている。後年、海原会報に河原先生と一緒に原稿書きをやっていたと言うそのコピイを見せた。

私は聞きたいことがあつた。明治以来、英国のクラーク大佐(のちの海軍大臣)の言葉「海軍はスマートであれ」のことである。すると当時の手帳を開いて、読み上げた。

「海軍は、スマートで、目端が利いて、几帳面、負けじ魂、これぞ船乗り」島田先生が言っていたとの事。小沢さんはこの言葉をモットーとして戦後、編集者魂を磨いたとの事。

◆「朝まで生テレビ」

戦後の小澤さんはいくつかの出版社を経験しながら、ジャーナリストの道を進むことになる。

後年、太平洋に散つて逝つた戦争の傷跡を訪れている。しかし、ペナン、シンガポール、アンダマン島には行きたくないと言ひ返した。

この間、戦没学徒兵の仲間がどのような思いで戦地に向かい、戦い、死んでいったのかを知った。

今、手元に「きけ わだつみのこえ」(岩波文庫)がある。一戦没学生(美校出身)の走り書きした絵がある。やせ細った骨と皮の姿。もう一枚はやせ細った自分の廻りに食べ物絵がびっしり書かれている「これだけあれば病気がなおり」と付記して

「取材に同行して」

石原長夫

「スマートで目端が利いて几帳面、負けじ魂これぞ船乗り!」取材に伺つて、当時の海城で叩き込まれたと聞いた言葉である。思い当たる節がある。スマートはともかく、几帳面だ、負けず嫌いだなどと良くいわれた。同期の仲間を見ても、どこかこの要素を兼ね備えている。時代は違つても受け継がれた伝統なのかと思つた。

小澤さんが昭和 50 年代の前半に「海原」に何度か登場されているが不覚にも知らなかった。丁度、40 歳台の前半で、企業戦士としての真つ只中だったからだろうと思う。

今、再度耳を傾けてみる。「戦争とは、国のために殉ずるとは何かを考えて欲しい。本を読み、現実を客観的に見る複眼的な思考力を持つて欲しい」と、ご自身の体験を通して語りかけている。

ある。勝手な解釈をすれば、食物は限りなき平和への希望。そして現実の自分だろう。話は戻す。

昨年 7 月「朝まで生テレビ」に出演。テーマは「靖国問題」あの戦争「若い世代にこれだけは伝えたい」などを戦争体験者・パネリストとして発言した。

◆この町

小澤さんは昨年、都心から湘南・平塚に移り住んだ。

私は珍しい貴重な風景に出くわした。町名どおり、松ノ木が無秩序にそこかしこに元気で生息している。最早、日本の至るところで鉄錆色に変わりその姿を失いつつある。松は吉祥の木である。どこかの家の庭から、道路の際から、空き地の中からである。

小澤さんはここで晩年への思索とわだつみ会」の役員として、平和・不戦・友好の活動をなさっているに違いない。

那須高原海城高校

THE NASU-KAIJO ACADEMY

平成 18 年度大学入試 主な結果

今年度の入試結果を見ると、特徴が2点あげられます。一つめは、現役合格率の向上です。今年度の現役合格率は、全体で62%、中高一貫生にいたっては74%とここ数年着実に上昇しています。二つめは、全寮制の強みとして推薦・AO入試の結果も依然としてここ数年顕著な伸びを見せています。今年度20名の現役合格者のうち14名(70%)が推薦・AO入試による合格でした。これは集団生活で培われた「自主性」・「協調性」・「自己表現力」が存分に発揮され、総合的な「人間力」が大学に評価された証といえるでしょう。

那須高原海城中学校・高等学校 中学・ジュニアプレップ部長 塩田 顕二郎

国公立大学		同志社大学	
	数		
信州大学	1	青山学院大学	1
宮城教育大学	1	関西大学	2
水産大学校	1	法政大学	2
私立大学		成城大学	1
北里大学	2 (1)	成蹊大学	1
昭和大学	2 (2)	東京理科大学	1
東海大学	1 (1)	東洋大学	1
日本大学	4 (1)	駒澤大学	4
明海大学	1	専修大学	1
帝京大学	1	学習院大学	1
日本薬科大学	1	中央大学	1
第一薬科大学	1	東邦大学	1

() は、医学部の合格者数

那須高原海城卒業生に聞く

前号(平成17年12月22日、第25号)に紹介されている。

☆同窓会発足に向けて

6月3日、総会、懇親会終了後、オプザーバーとして参加していた那須高原海城卒業生6名(平成11年卒1期生 蒔田 典真君、3期生 佐藤 拓則君、平成14年卒4期生 高橋 新君、4期生 吉江 一晃君、4期生 深澤 宙君、平成15年卒5期生 山中 保明君)と那須高原海城で教師をされていた池田健一総務企画委員長(昭25)に集まっていた。同窓会組織の結成時期と今後の展望について聞いてみた。



☆澄んだ空気。美しい四季
那須高原海城はご承知のとおり、平成8年、日本では珍しい全寮制の中高一貫校として、「那須の大自然がボクらの栄養になる」をキャッチフレーズに開設された。これからの国際社会に活躍する「新時代のジェントルマン」の育成を追求して生まれた新しいスタイルの学校は、年

間約265日の共同生活。通制の学校では得られない時間的、精神的なゆとりと、不要なノイズの無い、豊かな環境。その中で同級生や先輩、後輩、先生と一緒に暮らし、たとふりと語り合い、自分を発見し育てていくことを目指している。

昨年10月に学園創立10周年を迎え、それを機に第1回の同窓会が開催され、大変盛大であったとの記事が「海原」

正式な同窓会として活動するための組織化については、8月5日(土)開催予定の総会で、かねてより検討を重ねてきた会則の制定、幹事の選任(1学年2名)など、初期的整備について提案し、決めていきたいと語っていた。ただ普通校と異なり、同期生同士の繋がりに多少希薄な面があるとの発言があり、少し心配していることが判った。それは全寮制のなかで、中学1年か



新2号館、完成

最先端の技術を使い、耐震・免震・制震機能を備えた新校舎

寮生活が続いていたことが、卒業後にも影響しているのではないかと言っていた。ともあれ、同窓会が正式に発足し、卒業生全員に周知されれば、那須高原で日々を楽しんだ人達の関心度は高まり、創設に関わる彼らの熱意を持つてすれば、強固な組織ができるものと感じた。

(小川晴望 記
鈴木武道 写)



着工から1年、待ちに待った新2号館がついに完成しました。正門を入って正面にそびえ立つ8階建ての新校舎は、1階から4階までが既存2号館、5階が免震装置の設置さ

れた免震階、6階から8階までが新築部分と、3つの部分から成っています。しかし、「つぎはぎ」という印象は全くなく、母校の新たなシンボルタワーにふさわしい、一体感のある重厚な建物になりました。

既存校舎の上には免震階をはさんで新校舎を作る今回の「上空増築新構造システム」は、これまでになかった。例のない画期的なものであり、各方面から注目を集めているそうです。また、既存校舎を取り壊さず



に新校舎を造るため、従来に比べて建築廃材が大幅に少ないことから、環境にやさしい「魅力再生建築」としても注目されているそうです。

海原会にとってうれしい偶然もありました。地震の際に起きる振動を吸収するため、4階の既存部分と5階の免震階を結ぶ階段には特殊なバネが設置されています。このバネは特注品で、その製作にあたった信成発條製作所の工場長鈴木正一氏のご子息正人氏が、偶然にも海城の卒業生でした。間接的ながら卒業生が新校舎建設に関わっていたことがわかり、喜ばしい話題となりました。

工事期間中も母校では通常の授業がおこなわれていました。既存2号館では高校3年生が授業を受けており、その頭上で工事がおこなわれていたのです。授業の妨げにならないように細心の注意を払いながら作業をしてくださった現場の方々に、この場をお借りしてお礼申し上げます。また、工事期間中の様々な不便に耐え、新校舎建設に協力してくれた生徒諸君に、心より感謝します。中でも、不利な環境にもかかわらず学習によく励み、立派な進学実績を残した今年度の新海原会員諸兄に、心から敬意を表します。

(昭56年卒 母校英語科教諭 建設委員 内田 玄司 写真・撮影・吉村行雄 ©2006)

編集後記

▼本号「同期会・クラス会等通信」は、昨年12月発行の「特集 同窓の集い」を上回る投稿数を頂きました。地区の集い、部活OBの集い、学年同窓会、同期会そのれに先生を囲んだ4人の会などの情報は、本来「会報」が伝えるべきものとして歓迎するもので、今後ともご協力をお願いいたします。なお、住所変更等により本誌が返送される件数が増えています。変更の際は早めに事務局まで連絡ください。

(小川晴望)